

「フューネラルビジネスフェア 2025」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2025年6月4日（水）から5日（木）にかけて、横浜市西区にあるパシフィコ横浜で「フューネラルビジネスフェア 2025」（主催：総合ユニコム株式会社）が開催されました。花きの国内消費のうち葬儀向けは、業務用需要の69.3%（推計）（※）を占めています。

「フューネラル（英語で「葬式」を意味する）フラワー」に分類された展示ブースには、トレンドの葬儀用生花や祭壇を提案する様々な展示がありましたので紹介します。

※「花きの現状について」令和7年6月 農林水産省農産局

1 「フューネラルビジネスフェア 2025」の概要

当フェアでは葬祭サービスとライフエンディングをサポートする、葬祭事業者等を対象とした総合展示会及びシンポジウムが開催され、28回目となる今回は、147社が出展しました。会場には輪菊を使用した祭壇だけではなく、バラやアジサイ、カーネーションなど、様々な洋花を使った個性的な祭壇の展示コーナーや、生花祭壇設営の講習会が開催されました。

2 葬儀用祭壇の変化

これまでの祭壇は、輪菊を基調として多くの生花が装飾に使われていました。展示会では、家族葬用にコンパクトな祭壇や、造花と生花を使うハイブリッドタイプの祭壇、大型のデジタルサイネージを取り入れた祭壇など、様々なタイプの祭壇が紹介されていました。現代の多様な消費者ニーズを細かに捉えながら、葬儀用祭壇も多様化しています。



ハイブリッドタイプの祭壇



大型デジタルサイネージ祭壇

3 輸入される多様な葬儀用花き

切り花胡蝶蘭の生産・輸出会社「青島天美花卉有限公司」は、中国の青島市に大規模な生産拠点を持つ胡蝶蘭専門の会社です。現地から日本へは3日

で到着し、月に4～5万本が日本へ出荷されています。葬儀用の切り花胡蝶蘭は、花の大きさを12～13 cmの規格に定めて出荷しています。



「青島天美花卉有限公司」出展ブースの様子

株式会社ディーマーケットは、国内外に切り花の契約産地を持つ総合商社です。カーネーションやアルストロメリアはコロンビア、バラやユリはエクアドルから仕入れています。海外産地では年間を通した安定気候や大きな日寒暖差は、高品質な花の安定供給を実現しています。展示されていた輪菊、スプレーマムの国内産地には、本県産（田原産）もありました。



「株式会社ディーマーケット」出展ブースの様子

今回の取材を通じて、葬儀で使用する花「フューネラルフラワー」は、これまで輪菊が主に祭壇で使われてきましたが、今後はあらゆる種類の切り花が葬儀用として用いられる可能性を秘め、その選択肢は多様なものになっていると感じました。



バラやアジサイを使った生花祭壇